

経営健全化方針に基づく取組状況（令和5年度）

○法人名

徳島都市開発株式会社

○経営健全化方針を策定した理由

第42期決算（令和3年1月期決算）において、債務超過額が1,027,405千円発生したため、策定したものの。

○財政的リスクの状況

	第42期 (R3.1.31)	第43期 (R4.1.31)	第44期 (R5.1.31)	第45期 (R6.1.31)	目標達成 第53期 (R14.1.31)
債務超過額(千円)	1,027,405	1,630,139	1,907,319	1,905,925	0

○主な取組状況

【法人自らによる経営健全化のための具体的な対応】

- ・徳島都市開発株式会社の第45期決算の状況は、前期(第44期)と比較して、営業損益及び経常損益の赤字幅が縮小した。純利益は、アミコビル改修費用に対する補助金により、139万円となり、「そごう徳島店」閉店以来、初めて黒字を計上した。
- ・アミコビルは令和5年5月に「グランドオープン」を果たし、来館者・売上高を前年より伸ばした。9月には、上層階オフィスゾーンへのテナント入居もあり、第45期末でアミコビル全体の約86%が契約済みとなった。
- ・集客対策として、「アミコ専門店街」と「アミコ東館」合同で「1円以上お買い上げの方駐車料金サービス」を実施した。また、「アミコドーム阿波おどりフェスタ」等の「アミコドーム」を利用したイベントを本年も継続的に開催し、徳島駅前の活性化とアミコビルへの集客を図った。
- ・ビルの賃貸事業以外には、徳島都市開発株式会社と公益財団法人徳島市文化振興公社が「阿波おどり未来継承まちづくり共同体」を結成し、指定管理業務である「阿波おどり会館及び徳島市営眉山ロープウェイ」の管理運営のうち、「眉山ロープウェイ」を担当した。

【地方公共団体による財政的リスクへの対処のための対応】

- ・市幹部職員が取締役及び監査役として経営に関与するとともに、定期的に経営状況報告を求め、経営状況を確認した。
- ・徳島駅前再生事業として、駅前の魅力向上及び新たなにぎわいの創出を目的に、アミコビル改修費用に対し国交付金を伴う補助を行った。

○法人の財務状況

貸借対照表・項目	金額（千円）			
	第42期 (R3. 1. 31)	第43期 (R4. 1. 31)	第44期 (R5. 1. 31)	第45期 (R6. 1. 31)
資産総額	4,900,694	5,231,824	6,232,290	6,094,495
（うち現預金）	1,589,720	1,126,664	1,249,420	715,836
（うち固定資産）	3,217,478	3,696,611	4,734,710	5,225,553
負債総額	5,928,100	6,861,963	8,139,609	8,000,420
（うち本市からの借入金）	1,117,516	2,117,516	2,117,516	2,112,620
純資産額	△1,027,405	△1,630,139	△1,907,319	△1,905,925

損益計算書・項目	金額（千円）			
	第42期 (R2. 2~R3. 1)	第43期 (R3. 2~R4. 1)	第44期 (R4. 2~R5. 1)	第45期 (R5. 2~R6. 1)
売上高	1,414,597	995,262	2,010,632	1,413,259
売上原価	1,516,249	1,515,719	2,193,510	1,535,469
経常損益	△222,235	△864,425	△288,224	△210,902
特別損益	△5,117,838	0	141,425	221,061
税引前当期純損益	△5,340,073	△864,425	△146,799	10,158
当期純損益	△5,510,486	△602,733	△273,841	1,394